

## 第2回公民館グランドデザイン検討委員会 議事録

日時 令和2年9月6日

場所 府相公民館ホール

時間 午後2時から

欠席：2名

### 1 前回までの振り返り

#### 事務局説明

(1) グランドデザイン策定の趣旨・目的

(2) スケジュール

今回は「あり方の大筋」作成。進め方は、提案をしていくのでそれに対して意見をもらい、意見を落とし込んだ形で作成していく。

(3) 第1回で説明したこと…現状と課題、課題に対する解決策

公民館機能を「交流館」と「中央公民館」に分けることで解決策になるのでは？

○「交流館」を学校と複合化という提案をした理由

・竹島小学校に府相公民館、塩津・西浦も今後学校に併設で計画が進んでいること。

・実際の豊田市の事例を見ても子ども・地域との連携が円滑にできている。

・地域学校協働活動などの国の施策にマッチしている。

○中央公民館は公共施設マネジメント計画に「1～3の中央公民館」とあるが、生涯学習課の考えとしては1つの中央公民館を既存の施設を利用して事務所を市民会館に置くことを想定している。

委員：中央は市内に3つと言うような話があったが、最終的には1つということ？

事務局：市民会館に1個所の中央公民館を置くという提案

委員：東、中央、西の一つずつというという考えがあるように聞こえたが。

事務局：マネジメント計画を読むとそのようなイメージが湧くかもしれないが、生涯学習課が提案しているのは、現存の公民館はすべてフラットな位置づけで、中央公民館は別で市民会館に設置するということ。

委員長：当初は現存する公民館の中から1～3から拠点公民館という話があったが、そうすると一部の公民館だけが拠点になってしまうので元々フラットな関係だった公民館に格差が出来てしまうのではないかと、恐れから市全体として一つ集中的な中央公民館を設置し中央公民館との協力関係を基に地区の公民館はフラットな関係で並ぶという形に考え直したという事で良いか。

事務局：よい

委員：具体的に中央公民館にどのくらいのスタッフを用意して、これまでの公民館とはどういう関係になって、今の公民館の何が変わるのかイメージができないので説明してほしい。

事務局：想定としては社会教育主事の資格を持つ職員を中央に一人置きたい。そのほかに公民館担当を何人付けられるかと言う話は人事の話なので現時点では私たちの判断でお話できない。

現在の公民館と何が変わるかという事について。現在の公民館の職員の業務が飽和状態であることを感じている。一方でアンケートではより多彩な講座が求められている。今の公民館にもっと色々な講座をやってほしいと言っても厳しいのではないかと、ということから中央公民館でそういった新規の講座の企画の仕事を任せてもらい、地区の公民館では今まで通りの講座を行う。現在の職員の負担軽減になるのでは？というところで中央公民館が新しい講座を企画するという立場として提案させていただいている。

委員：(公民館では) クラブサークル以外に生涯学習講座などを開いているが、そういったものがすべて中央公民館に行くという事か。

事務局：すべてとは言わない。現在行っている講座でも地元の方が楽しみにしている講座などは地区公民館でできる範囲でそのまま行えばよい。地区公民館で新規で何かやりたいとか要望があれば中央公民館が色々と提案したりして地区公民館と相談しながら実施していくイメージ。

委員：要は、現在の公民館で今まで通りの講座を開いていいかという事が聞きたい。役割分担で変わってくるのか

事務局：やってはいけないとは言わない。館によって温度差があると思うので、そこは相談して実施していく。

委員：生涯学習を市民会館でやるとなると、中心部から遠い地区の方は参加しづらい。今は地元の公民館が色々と講座をやっているので歩いて行ける範囲で講座を受けられるが、中央まで行かないといけないとなると面倒で行けない。結局中心部の住民ばかりが利用して、遠い地区の人は切り捨てられた感覚にならないか。

事務局：地域差の解消も中央公民館の目的である。現在でも館によって講座の数が違う。どこの地区でも十分な学習ができるよう中央が見渡し、不足しているところには中央から派遣する。大規模な講座などはどうしても中央になってしまうが、地区ごとでやれる講座については講師を

派遣して実施する。そういう全体を把握できる場所として中央公民館が必要と考えた。

委員長：過去の事例として、中央公民館ができることで地区の公民館が衰退してしまうという事例は無い。中央に（地区公民館の生涯学習機能が）吸い上げられてしまうということは気を付けていないとそういうことになる可能性はある。

事務局が説明しているのは、あくまでも地区公民館の活動をサポートしていくという意味での中央公民館をイメージしているのかなと思う。これまで続けていた講座は続けられるし、必ずしもきちんと講座がやれるところばかりではないので、そこは中央公民館がサポートしていく。同じような例もある。名古屋天白生涯学習センターでは町内会が盛んなところで町内の方が学習活動をしたい時に町内会の人々が講座を企画し、予算・講師などは生涯学習センターがサポートして町内会へ講座を持ち出して行うということをやっている。どちらかと言うとそのイメージかなと思った。

委員：公民館の職員について。忙しい忙しくないより、公民館が朝から晩まで開いているのに働き手の主事が18時間しかいられないというところがもともと無理がある。これから小学校に入行って交流をやっていくためにコーディネーターを付けるという話もある中で、公民館に主事とコーディネーターを職員として配置すれば勤務時間を賄える。話によると、コーディネーターを小学校につけるという話もあるようだが、現状を考えると公民館に置くべきだと思うが。

事務局：職員不足については長年訴えているところ。

委員：形原・三谷などは主事が2人いる。全館複数主事と言うのは前からの要望。ぜひ、コーディネーターを公民館側の職員として雇っていただきたいと思う。

委員長：実情としては職員体制についても検討が必要であるということ。地域コーディネーターについては制度上学校につくとか、公民館につくという事ではなくて、地域学校共同活動本部につくものであるため、本部がどこに置かれるか、という事になってくる。公民館で地域学校共同活動のサポートをするのであれば公民館に設置した方が良いと思うが、現状市の方針もあると思うので何とも言えない。

事務局：他の地域でも色々なので、どうなるかわからない

委員長：制度的には社会教育なのだが、実態的に愛知県はそのように動いていない。

事務局：職員体制については引き続き検討していきたい。

事務局：補足説明。中央・交流館になると何が変わるのかというところ。地区の生涯学習講座は特色がある。クラブサークルの方が講師となって学校に教えに行くなどは地域の特色ある活動として続けていただきたい。それに対し例として昨年令和に変わった時にある地区が万葉集の講座を開いた。それは地区のアイデアであったがそれはその地域だけでなく全市的に行っても良いレベルのものだった。でももしそれを別の館に紹介してもまた最初から講座を組み立てる必要がある。その講座を中央があずかってパッケージ化したうえで地区の公民館へ派遣して実施するというやり方にするると各地区の公民館にまんべんなく効率よく講座の運営が出来る。そういった間に入る中央、請負う地区交流館というイメージを具体的にわかりやすく説明した。

委員長：地域でやった講座を全市的に実施する場合にサポートを中央がしていくという説明ということ。

## 2. なぜ「交流館」と「中央公民館」なのか。

事務局説明

(1) 実績・アンケート結果からわかる事

利用率低さ

特定の70代の方の講座・クラブサークルの利用が多い

利用者拡大の可能性はある

公民館に期待する機能・学習は多様性を求められている

気軽な利用、学校との連携などを求める声がある

委員：アンケートの7ページを見ると、気軽にお茶が飲めるところがほしいとあった。近く（市外）の公民館にお年寄りが集まっているので見学に行った。どうして集まるようになったのか聞いたら「一人だと寂しい」と言っていた。お菓子が用意されていたのでそれはどうしたのか聞いたら「市から少しもらっているが、盆踊りの時に花や野菜を作っている人がバザーで売る。それをもとに運動会の（子供に配る）鉛筆を買ったり絵本を買ったりするお金とお菓子を買うお金にしている」という。子供と活動しているうちに子供たちと話が出来るようになった。子供からあそこの一人暮らしのおばあちゃんは何かあった時にどうやって逃げるんだらうねとかいう会話も出るようになった。ここは「憩いの場」と呼んで集まっており、主事さんは月に1回顔を出す。そこでは7ページにあるようなお茶が出来るところがあり、（この活動

により)災害の時には子供がおばあちゃんを呼びに行くことにつながった。ただ盆踊りに参加するのではなくバザーをすることが楽しいと言っていた。それぞれ公民館の別のサークルに入っているが、その時は一か所に集まって話をしている。そこで主事さんにあんなことがしたいこんなことがしたいと言う話をしている。

7ページにあるように、みんな話したい集まりたい、という気持ちがあるんだと思う。

事務局：まさにそういうことをやりたいと思っている。お年寄りと子供が顔見知りになれる地域のつながりを作る場所として公民館がある。実際にそういう活動が出来る場所として「交流館」を作っていく。

委員：そういう部屋を作るとよいが、現実的にそういう部屋がない。新しい公民館を作るときには、談話室みたいなものができるとうい。

委員：そこも普段は自由に使用できないが、週に1回はみんなが集まる場所として開放している。畳の部屋で足を投げ出して座っていた。テーブルは落ち着かないし倒れそうで怖いと言っていた。和室の方がいいみたい。

委員：府相公民館ができて1年？半年？だが、実際に交流みたいなことはあったか。

事務局：コロナであまりできていないが、先日5年生が初めてミシンを家庭科でやるときにミシンを地域の方に教えてほしいという事でボランティアが5名ほど参加して授業を行った。昨年度末は放課後子供教室としてイングリッシュキャンプを地域の方が先生になって英語の勉強をした。

委員：そういった面で学校と複合化するとそういうメリットが生まれるとういことか。

事務局：子供にとってもお年寄りと触れ合うことが少ないなかでそういった機会があるのはよいこと

委員：子供会の活動は役員が親なので親が考える範囲でしかできていない。地域活動ではなく家庭の延長となっている。子供会の活動をぜひ公民館でやってほしい。今のような活動を子供会活動として位置付けると1年間格安で保証が付いた団体活動が出来るので、子供会をこっちに持って行きたい。親の世界だけの活動だと勿体ないし、公民館での交流活動は必要であると思うので、注目している。

事務局：府相公民館でワクワク大作戦というのが予定されていた。こういう作

りなので学校の共用部分まで使って子供たちに色々な体験をしてみらおうと思っていた。地域のボランティアを集めてやるつもりだったが、コロナでまだやれていない。またタイミングを見計らってやりたいと思っている。

委員：東部公民館が主体となり、地域の方が先生になって小学校へ行く「地域の先生」をコーディネートしているところにかかわった。参加されている高齢者の方はその行事をととても楽しみに一年間頑張っている。そういう機会を増やしていくのはとても大切。地域の公民館が企画しているのがその良さだと思う。中央公民館が市全体を見て、地域の公民館の良さをうまく生かして発展していくといいなと思う。子育てしながら働く女性として、子供が大きくなって時間が出来たが何かできたらいいなと思うがかかわるきっかけがない世代になっている。そういう人はたくさんいると思う。地域でなにか少しやってみたい、デビューする何かきっかけ・講座があればいいなと思う。

委員長：地域単位で置かれている公民館は現状でも存在意義がある。公民館はすべての世代が集まれる総合的な社会教育施設である、多世代交流も含めて可能性のある施設であるという事が良くわかった。また子育てが終わった世代が何か始めたいと思った時にきっかけ作りが出来ると良いという話。中央公民館の方が地域の方向けのきっかけづくりが講座などで出来るかもしれない。これまでの地域の公民館がやってきた意義や守備範囲は守りつつ、新たな活動をふくらませていくときにそこは中央公民館が担うんだという事が良く分かるような方針を作っていけるとよいと思った。蒲郡市の公民館として主事が取り組んできた歴史がある。そこを踏まえていく必要があると感じた。

## (2) アンケートの課題の分析、課題の考察

事務局より説明

- ・第1回目の説明で明らかになった課題の原因・根拠  
使いづらさ  
利用者の固定化  
何をしているところかわからない

## (3) 解決策の考察

○5つの解決策

委員：公民館職員の業務量軽減と言うが、軽減策より職員体制の充実を提案

する。現状公民館職員は退職した60以上の人がほとんど。(解決策の)①にかかわるが公民館の事を知ってもらうというところで、HPくらい作ってはどうか。研修会などを開いてHPを作っていくべき。一般の人とのやり取りもネットでできる時代なので、ぜひやってほしい。

委員：公民館の運営にかかわる方に若い方がいないと若い方のニーズがつかみにくいのでは。例えば子供会にジュニアリーダーという子たち(中・高・大)がいるが、今はコロナで活動の場がなくなっている。こういうものに志願してくる子はおそらくみんなを喜ばせることをやりたい子たちが来ていると思う。こういう子たちに運営会議に来てもらって公民館の活動に引っ張り出しては。例えば成人式の実行委員をやってもらう子にも、成人式をやって終わりではなく、公民館に対する意見を出してもらうなどしてもらったら。せっかくの人材なのでこういうところで活躍してもらってはどうか。

委員：コーディネーターを公民館へ、と言う話の中で、社会教育主事を公民館におきたい。公民館に配属されたら資格を取る。中央公民館からの指示で動くのではなく、地域の公民館が企画力をもつ、自分たちで立案して地域を変えて行こうという人材がいるといいなあとと思う。資格を取って意識の高い公民館職員がいることがすごく必要なのではと思う。

委員長：豊田市は15年位前から交流館の職員に毎年5~6人社会教育主事講習を夏休みに受けさせている。社会教育の専門的な学習をさせるということをやっているそうです。それにしてもジュニアリーダーにも公民館を手伝ってもらうと言うのは面白いアイデアだと思う。蒲郡は公民館ごとに運営委員会があるのか、市全体として運営審議会があるのか。

委員：それぞれの館に指定管理の中で地域の管理運営委員会がいるが、若い人はいない。

委員長：運営委員になるのは荷が重いかもしれないが、運営委員会で若い人に意見を出してもらうなど、そういう議論が作れるとおもしろいと思う。

委員：ジュニアリーダーは東部地区にはいるのか。そんな意識はなかったが。

委員：地区に偏りがあるかもしれない。大塚・形原に多いかも。地区にこだわらずに団体として意見を言ってもらっては。

## ○課題解決の提案

### 事務局説明

- ・交流館でできること、中央公民館でできること

委員：いつからこのグランドデザインになっていくのか。グランドデザインが決まったが、公民館職員にとって来年・再来年になっても何も変わらない、公民館の意識がいつまでたっても変わらないという風にならないか。来年から変えていけるものはどんどん変えていく。再来年は交流館と言う名前にしましょう、とか、中央公民館を何年までに作って今の公民館とこういう関係にしましょう、今の公民館の人は各小学校に何年か先には入っていくのだから今からそういう活動を実践してください、とか、何か具体的な物がないとずっと公民館職員の意識が変わらないと思う。いっぺんにできないこと、もっと言うと校舎が古くなったら入るといって何十年後になるかわからないが、すぐにできることはある。名前も交流館に変えることはできる。そういった具体的な道筋を教えてください。

事務局：中央公民館については色々な絡みがあるので市民会館にすぐ私たちがすぐ入って活動、という訳にはいかず何年後にできる、とはっきり言う事は出来ない。グランドデザインは生涯学習課が公民館の将来像として作っておかないと、他の施設との連携する部分もあるので市全体の色々な施設の構想の中で公民館のあり方を示す必要があって策定している。では何年後にそれが実現するのか、ということもわからない。ただ、すぐにできることはいくつかある。名前を変えるタイミングはデリケートな話なので押し量りながらにはなるが、職員の意識を変えるという事については、小学校との連携活動など、今からでもできることなので、取り組んでいきたいと思う。

委員長：グランドデザインの構想だけを検討するのか、今後の実現と見通しをある程度念頭に置いたものも検討するのかという質問であったと思うが、これは構想だけを検討するものですか。

事務局：そうです。公民館のあり方を策定するものなので、具体的な計画をどんどん作っていくものではなく、公民館は今後どうあるべきかという考え方を検討するものです。1回目で説明した通りこの案がすぐに市の考えになるわけではないが、我々が検討したものがこれでどうだと示せるものを作りたい。

委員：市民会館を中央公民館にという話があった。市民会館は文化協会が文



化祭などで使用しているが、古くて雨漏りなどしている。中央公民館として、災害時に危険なのではないかと思う。だいぶ手を入れないと安心して使えないのではと思う。その辺の検討は。

事務局：市民会館の雨漏りなどは手ごわいですが毎年指定管理者とやれるところから色々取り組んでいる。部屋の配置については、結構大きな部屋があったり、2階の利用率が低いなどという事もある。中央公民館が入れるスペースがあればレイアウトを変えて使うのか、ロビーのスペースを使うとか、部屋を増やして使うなどという可能性はあります。

委員：全く使っていない部屋がある。少し手入れをすれば色々なことに使えるのでは。地域の方がそこで結婚式などの貸衣装をやるなどやり方次第だと思う。

委員：基本的なことを聞くが、社会教育主事と言うのはどういうことを勉強された方なのか。

委員長：日本の教育の制度は大きく二つ。学校教育と社会教育。学校教育過程以外の組織的に行う教育が社会教育。社会教育は公民館、図書館、博物館などの社会教育施設、地域の社会教育関係団体が行っている活動を社会教育という。社会教育主事の資格を取るための社会教育主事講習というのが社会教育の大枠を勉強する生涯学習概論だとか、社会教育の実際の実践の進め方、計画の立て方について学ぶ科目があったり、自分たちの地域でどんな活動がしたいか検討する社会教育演習等、一方では理論的な勉強をし、一方では自分たちの地域に落とし込んで検討したりする。愛知教育大の社会教育主事の研修は現地に行って見学する研修もある。具体的な部分と理論的な部分で社会教育の勉強をする。おおよそ4週間にわたって行うもの。

委員：市の職員の方が派遣される？

事務局：現在は教育内で資格者が必要なので、教育委員会の誰かが資格をとっている。現在資格を持っている子が教育委員会の庶務課にいて生涯学習課にいないので取った資格が生かされていないのが現状。

委員：先生のところでは年に何回かあるのか

委員長：東海北陸の国立大学に持ち回りで4年に1回周ってくる。岐阜、三重、静岡、愛知。再来年愛知に来る。

## ○具体的なイメージ

事務局説明

現在の公民館の活動、事業を図で説明。現在以上に必要な活動とは。

交流館・中央公民館が出来た場合の活動の広がりについて図で説明。

委員：どこに入れるのかわからないがぜひここに入れてほしいのがボランティアスタッフの募集。中学生、高校生、企業の人向け。高校入試の時に社会貢献についての経験のアンケートがある。こういうボランティアの募集が頻繁にあると都合の良いタイミングでみんなが参加するきっかけになると思う。

委員：アンケートは利用者の声であると思うが、現場を運営している方の意見が反映されていない。そういう方の声も拾う必要があるのでは。

事務局：代表として公民館連合会の代表が参加している

委員：公民館によってやっていることや意識が違うと思うので、それぞれの館の人の考えもバラバラだと思う。そういう人の意見も反映させる必要があるのではないかなと思う。

事務局：月に1回程度主事会を開いている。その時に話をしようと思っている。

委員：地区の公民館の人にこの話をしたら知らないと言っていた。

事務局：前回の主事会でこういう会議を開いているという報告はしたが内容までの説明ができていない。今後の主事会では時系列的に詳しく説明していこうと思う。

事務局：アンケートは利用者というより無作為に抽出した市民に行っているので、だからこそ潜在的なニーズが見えてきたという結果になっている。

委員：ということは、利用者の立場で答えている人がほとんどかな、と思う

事務局：アンケートの質問自体が利用者に向けた質問になっている

委員長：確かに実際務めている主事さんの声も踏まえたうえでグランドデザインが作られていくと良いと思う。

委員：中央公民館は、今の生涯学習課を入れ替えて一つの部署として作れば市民会館に行かなくてもできるのでないか。多世代交流やふれあいなどは公民館だけがやっているわけではないので、再編成してやればどうか。

事務局：市民会館で、と言う話は会場として大きなホールや会議室を使うとなった時に近くに事務所があったら便利だという考えもある。

委員長：中央公民館は施設設備が伴うことが大事になってくる。そういった施設の事も踏まえたグランドデザインを検討しているのとらえればよいですか。

事務局：そのとおり

## ○他市講座の資料の説明

委員長：中央公民館での講座のイメージが膨らむので目を通しておいてほしい。

### 委員長講評

・公民館に勤めている主事の負担の軽減をかねて中央公民館と社会教育主事という構想だが、そもそもの職員体制の充実に取り組んでほしいというのが印象に残った。主事の取り組みで今まで取り組めなかったことに地域レベルで取り組めるようになることがあると思うので主事の働く条件も含めたことを検討に含めるべき。

・検討していく中で、イメージは膨らむが実際出来るかどうかは職員の力量による。そういうことができる職員がいないと絵に描いた餅になる。社会教育主事講習に主事が派遣できるかどうかはともかくとして職員の力量を高めるための策を考えて検討委員会の報告書に入れ込んでいく。構想としては職員の力量を高めるための体制を整えたいと言うことを押さえておきたい。

・アンケートの分析で議論になっていた公民館が憩いの場として使えるようにしたいというところ。全国的に多いのはロビーを開放して机やいす、ソファをそろえてお茶を飲めて話せる所があるというところが多い。公民館の中に喫茶店を作って障害者が運営している公民館もある。

一方では、利用者がいつでも使える部屋を確保しているところもある。木村さんの話は後者。やり方はいくつかあるが少なくともロビーが交流スペースとして使えるようになっているのはかなりニーズが大きい。そこを強調した検討資料ができるとうい。今の公民館のロビーを改修して交流スペースを作っちゃうくらいのことを書いてもいいと思う。